

国土交通省、事故車修理の標準作業時間調査結果を発表

実態に即した標準作業時間の策定に向けて、関係者間の議論が求められる

国土交通省は6月24日、事故車修理の標準作業時間の調査結果を公表しました。これは、自研センター指数が実作業時間と乖離しているという、車体整備事業者からの声を踏まえたものです。本稿では、同調査結果の概要を紹介します。

背景

事故車の修理工賃の決定に用いられる標準作業時間については、いわゆる「自研指数」が広く使用されています。一方、車体整備事業者より、この指数の時間では、終えられない作業があるとの声を踏まえ、国土交通省が第三者的立場から調査しました。

調査方法

世界各国の自動車メーカーから標準作業時間の策定業務を請け負うドイツの会社(CAB Deutschland GmbH、略称CAB)に、同調査で活用するための新たな標準作業時間の策定を依頼(以降「CAB工数」という)し、自研指数と比較しています。なお、CAB社との調整はテュフラインランドジャパンに委託されました。

3車種・特定の作業を検証した結果、板金作業においては、CAB工数の作業時間が長くなる傾向が見られた一方、塗装作業においては、差異は小さい傾向にありました。

調査の前提と結果の位置づけ

国土交通省は、同調査の前提と結果の位置づけについて、次のように説明しています。
 ・本調査は、同条件での比較が困難であることから、過去に決定された作業時間やそ

の妥当性を評価することを目的としたものではない。また、CAB工数と自研指数の優劣の決定や日本国内で標準作業時間として普及している自研指数の妥当性の否定を目的としたものではない。

・本調査結果は、限られた車種と特定の作業項目についての比較であり、全ての車種や作業に一律に適用されるものではなく、あくまで一定の条件下における参考値であるため、個別事案における作業時間の妥当性を裏付ける資料として用いることは適当ではない。

国土交通省の今後の対応

(1) 自研センターを含めた関係者との対話

国土交通省とともに、自研指数を策定する自研センター、損害保険会社、車体整備業者などの関係者による対話を実施し、より実態に即した標準作業時間を策定するための建設的な議論を実施する方針です。

(2) 車体整備事業者への周知

車体整備事業者に対して、次の内容を周

知する方針が示されました。

- ・自研指数の時間内に作業が終了しない場合は、損害保険会社と個別交渉することを周知。
- ・その際、損害保険会社や顧客に対し透明性をもって作業時間の妥当性にかかる説明を行うこと、その上で損害保険会社の不合理な説明で交渉が進まない場合には、国土交通省の情報提供窓口へ情報を入れること等も周知。

(3) 調査の継続実施

標準作業時間の調査については、令和8年度以降も継続的に実施される計画です。

同発表を受けて、日本自動車車体整備協同組合連合会と自研センターがそれぞれ見解を発表するなど、車体整備業界内において標準作業時間に対する関心が高まっています。

調査した車種

①トヨタ・ヤリス (MXPA1#)
②レクサスIS300h (AVE30)
③レクサスNX450h+ (AAZH26)

CAB工数と自研指数を比較した板金作業内容

作業内容
①<ヤリス>エキゾーストテールパイプAssy取替 (M240) <IS、NX>エキゾーストテールパイプAssy脱着 (M240)
②<ヤリス>エキゾーストテールパイプAssy、エキゾーストパイプAssyフロント取替 (M240) <IS、NX>エキゾーストテールパイプAssy脱着 (M240)
③片側フォアパネルサブAssy、片側バックドアオープニングサイドリインホースサブAssy取替 (B270) (対象フォアパネル:<ヤリス>右側、<IS、NX>左側)
④ボデーロウバックパネルサブAssy、片側バックドアオープニングトルーフ取替 (B290) (リヤバンパーカバー:<ヤリス>取替、<IS、NX>脱着) (リアシート脱着:<ヤリス、IS>含む、<NX>含まず)
⑤ラジエータサポートアップフロント、ラジエータサポートサブAssyロー、片側フロントフェンダーエプロンサブAssy、片側フロントサイドメンバサブAssyインナー取替 (B180) (フェンダパネル脱着:<ヤリス>片側、<IS、NX>両側) (フロントバンパーカバー:<ヤリス、NX>脱着、<IS>取替)

CAB工数と自研指数を比較した塗装作業内容(部位)

・各種箇所について、新品パネルを塗装するとともに、隣接する箇所にぼかしを入れる作業。

対象部位
ボンネット
フロントフェンダー
フロントドア
リヤドア
フォアパネル
バックドアパネル
ロウバックパネル
ルーフパネル
ロッカパネル



販売実績は1,447億9千万円で 前年度から40億円増加 5年連続で前年超えを達成

日本自動車機械工具協会（機工協、柳田昌宏会長）はこのほど、2025年度自動車機械工具販売実績の集計結果を発表しました。2025年4月～2026年3月の販売実績は1,447億9,141万6千円で、前年度（1,405億982万1千円）と比べて42億8,159万5千円（3.0%）増加しました。2年連続で1,400億円を超える好調な結果となり、5年連続で前年超えを達成しました。

商品カテゴリー別では、19項目のうち9項目が前年度実績を上回りました。特にリフト・ジャッキ・プレス、エアーコンプレッサー、バッテリークーラーサービス機器、ブレーキ・ホイールサービス機器、その他の5項目は過去13年間で最高の販売額を記録しました。

販売実績を押し上げた大きな要因として、整備事業者における旺盛な設備投資意欲が挙げられます。限られた人数で生産性を上げるための「省力化機器」の導入や、若手の採用・離職防止に向けた「労働環境の改善」への投資が目立っています。人手不足が深刻化する中、こうした投資動向は業界の今後を占う上で重要な意味を持つと思われます。

具体的な商品カテゴリーでは、構成比が最も大きいリフト・ジャッキ・プレスが252億円（前年比102.4%）と堅調に推移。また、ディーラーでは中型トラックを安全にリフトアップしたいというニーズからツインリフトの導入が進んでいることも特筆されます。安全性の観点から、従来の柱リフトよりもパンタグラフ型リフトの需要が伸びています。また、ブレーキ・ホイールサービス機器は、昨年度は前年割れでしたが、その反動もあり大きく回復した形です。タイヤの大口径化や低扁平化に対応する高機能仕様への買い替え需要に支えられ、80億円（前年比112.1%）と大幅に伸長しました。

車検機器は137億円（前年比94.9%）と前年を下回ったものの、高水準を維持しました。特にコンピューター車検システムは、近年のコンプライアンス意識の高まり

や、省力化、DXといった社会的な流れが追い風となっています。これまでは導入が難しかった車検台数の少ない事業者でも導入が進むなど、需要の裾野が広がっていることがうかがえます。時代の要請に応える形で、デジタル技術を活用した検査システムが市場に浸透している様子が明らかになりました。

洗車洗浄装置は108億円（前年比99.5%）と、ほぼ前年並みでした。この分野では、物流業界の「2024年問題」がトラックドライバーの労働環境改善需要を後押しし、大型の門型洗車機の需要が徐々に増加しています。また、車両の保有年数が長期化する中で、車を大切に乗り続けたいというユーザー心理から、ボデーコーティング剤などの低価格帯商品が伸びています。さらに、これまで無料サービスが多かった整備後の洗車を有料化し、コーティングなどの付加価値をつけて提供する動きも市場を支える一因となっているようです。

自動車総合診断装置は98億円（前年比99.5%）でした。このカテゴリーに含ま

れる検査場向けの自動ラインは、自動車技術総合機構などの更新計画や予算によって需要が大きく変動する特徴があります。また、カーメーカー向けの機器は、国内の生産工場の動向に影響されるため、引き続き注視が必要とされています。インフラや生産体制の変化が直接的に販売実績に影響する分野といえます。

ハンドツールは91億円（前年比97.4%）となりました。この分野で今後注目されるのが、EVの普及に伴い整備現場で不可欠となる絶縁工具です。EV市場の拡大とともに、関連する工具の需要も伸びる傾向にあると見られており、将来的な成長が期待されるカテゴリーです。

省力化や効率化を目的とした設備投資の増加と、製造コストや人件費の高騰を価格に転嫁する動きがうまく進んだことが、5年連続の成長を支えました。一方で、OBD検査の定着や高度化車両の増加に伴い、整備内容がより専門的かつ複雑化していること、そして整備要員不足がより一層顕在化した1年でもありました。

2025年度自動車機械工具販売実績

項目	国内販売金額 (千円)	輸出版売金額 (千円)	輸入販売金額 (千円)	合計金額 (千円)	対前年度比 (%)
自動車総合診断装置	5,962,344	3,822,220	0	9,784,564	99.5
車検機器	13,695,916	46,528	1,698	13,744,142	94.9
洗車洗浄装置	10,692,413	4,174	140,984	10,837,571	99.5
リフト・ジャッキ・プレス	24,971,394	10,039	234,217	25,215,650	102.4
エアーコンプレッサー	3,723,323	157	155	3,723,635	104.2
空圧電動工具	3,096,745	1,015	35,928	3,133,688	105.9
ハンドツール	8,547,226	560,804	3,460	9,111,490	97.4
車体整備機器	917,043	523	175,848	1,093,414	82.5
塗装機器	1,080,107	0	6,888	1,086,995	70.7
バッテリー・クーラーサービス機器	4,855,096	0	401,962	5,257,058	118.5
エンジン診断用機器	4,222,346	5,116	401,789	4,629,251	80.9
エンジン整備用機器	471,793	4,622	31,342	507,757	102.1
ディーゼル用機器	97,727	0	0	97,727	220.9
ブレーキ・ホイールサービス機器	6,556,697	1,529	1,490,616	8,048,842	112.1
ガレージ用一般機器	6,244,125	672	126,751	6,371,548	103.6
注油脂機器	2,219,482	2,289	26,633	2,248,404	97.1
各種システム	536,048	0	0	536,048	99.9
環境整備機器	665,594	0	116,184	781,778	90.2
その他	37,944,233	559,590	78,031	38,581,854	112.9
総合計	136,499,652	5,019,278	3,272,486	144,791,416	103.0

レーザーから協働ロボットまで、最新技術が集結

RX JAPANが主催する製造業向けの最新技術が集まる総合展示会、「第38回 ものづくりワールド 東京」が7月1～3日の3日間、東京ビッグサイト（東京都江東

区）で開催されました。

同展は「ものづくり ワールド」、「第1回 建設DX展プラス」、「第1回物流DX展」の3つで構成され、2,109社が出席しまし

た。ハンドツールからAIを活用した業務分析、自然災害対策まで数多くの製品・技術が提案されました。3日間の来場者数は81,697人でした。



ウェルマテック

1台でレーザー溶接・クリーニングが可能な「SF」シリーズが登場。500×500mmの錆除去作業を約15分で完了でき、ワイヤを使用したレーザー溶接や、クラディング、切断など幅広い用途に対応



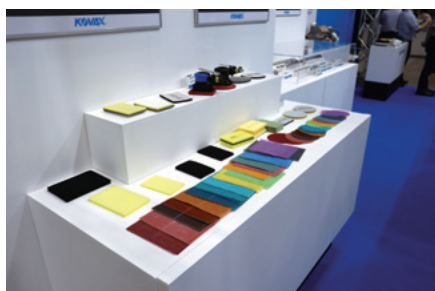
京都機械工具

電波で複数のタグを検知・管理可能なRFID技術。そのタグを埋め込んだハンドツール「nepros ID」はチェックイン/アウトの確認から耐用年数管理、検知器を用いた紛失防止など業務効率を向上させる



気高電機

80℃の温風で乾燥時間を送風乾燥の約1/3にまで短縮する温風発生器「QUICK-D AQUA III」。温度は2段階、風量は無段階で切り替えられ、温度・湿度の影響を受けやすい水性塗料の乾燥にも使える



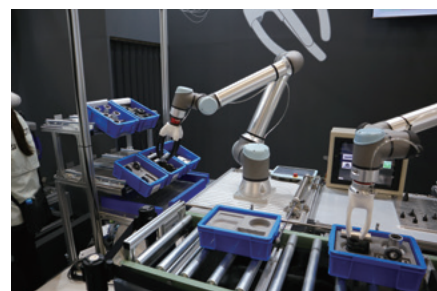
コバックス

自補修向けに開発された研磨シート「スーパーアシレックス&アシレックスシリーズ」は凹凸や逆Rなどあらゆる形状にフィット。鉄鋼、アルミ、木材まで対応しており各製造業から関心を向けられている



ストラクト

「防電ネット」は所轄の検査機関へ確認が必要となるが建築法上は工作物に該当し、基礎・柱・ネットのシンプルな設計のため短工期で設置が可能。ネットでひょうを受け止めることで車両への被害を防ぐ



ブリヂストン

複数ワークを1台で対応できるロボットハンド「TETOTE」。布のように薄い厚みのものから、様々な形状のパーツのピックアップや10kgを超える重量物の保持も可能で、製造現場の自動化と負担減に貢献

「NGP宝くじキャンペーン」当選者決定！

NGPが2026年4月1日～6月30日の3ヵ月間開催した「宝くじキャンペーン」への応募口数は35,612口、応募に使用されたギランティシールは前回（2024年）の2倍以上となる178,060枚に上りました。全国からたくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。

皆様からお送りいただいた応募の中から、小林信夫理事長をはじめとしたNGP理事メンバーが厳正な抽選を行い、当選者が決定いたしました。なお、抽選の結果につきましては、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

NGPは今後も、お客様によりこんでいただけるように各種企画を展開して参ります。



NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和8年6月：

1,913t

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和8年6月：

0.3t

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。



NGP組合員 かわら版

第21回初級生産管理者・フロントマン研修会を開催 NGPの高い品質を支える理念とスキルを学ぶ

NGP協同組合は7月13～15日の3日間、BumB東京スポーツ文化館（東京都江東区）で第21回初級生産管理者・フロントマン研修会を開催しました。

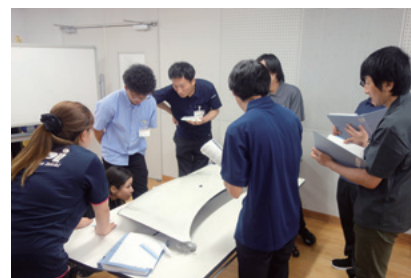
初級研修会は、生産・フロントの概念やNGPシステムの活用方法など各職務における基本を身に付けるためのものです。

1日目には、小林信夫理事長からNGPの取り組みや研修の重要性についての講話を受けました。その中で小林理事長は、「NGPは、全社が同じルールで高品質な商品を生産し、フロントマンがその品質をしっかりとお客さんに伝えることができます。それらを徹底しているため、生産管理者が生産する商品の品質、フロントマンのお客さま対応の品質が、業界ナンバー1だと自負しています。その品質を築き上げているのが各種研修です。基礎研修では、NGPの思い、考え方を感

じていただいたと思います。初級研修では、業務におけるスキルを学んでいただきます。しっかり学び、皆さんの会社を盛り上げ、さらにはNGP全体を盛り上げていただきたいと考えています」と、受講生を激励しました。

3日間の研修を終えて、(株)南商会の北川卓弥さんは「初日にはみんなの言動からも、生産とフロントの溝のようなものを感じました。生産は生産、フロントはフロントと、お互いどう思っているのか、どうして欲しいのか、同じ仲間なのに知っているようで知りませんでした。お互いに“こうして欲しい”、“こういう苦労がある”など、腹を割って話せたこと、短かったですが3日間同じ時間を共有できたことがとても大事なことだと思いました」と、生産管理者とフロントマンがともに学ぶ研修形式の意義を実感してい

受講生を激励する小林信夫理事長



ました。その上で、「中級研修で同じ顔を合わせるかと思いますが、その時にお互い成長した姿を見せることができると確信しています」と、自身の成長への決意と仲間の成長への期待を示しました。

第25回ハイブリッド・次世代技術セミナーを開催 電動車の構造や作業時における注意事項についての理解を深める

NGP協同組合は6月25・26日の2日間、あいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センター（静岡県裾野市）で、第25回ハイブリッド・次世代技術セミナーを開催しました。

低圧電気に関する基礎知識や高電圧回路の遮断方法、ハイブリッドシステムの種類や各種部品の役割について学ぶとともに、ハイブリッドバッテリーの脱着作業などを実習しました。

2日間の講習を終えてリバー（株）ELV川島の天野佳依さんは「日ごろから慣れた作業を行う中で、無意識のうちに基本的な安全確認がおろそかになってしまう可能性がある」と改めて認識しました。今回のセミナーで学んだ内容を活かし、ハイブリッド車は手順を誤ると重大な事故につながる危険性があり、常に危険物を取り扱っているという意識を持ち、初心を忘れず、安全第一で業務に取り組んで



いきたいと思います」と、安全に対する意識の重要性を再確認していました。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
中四国	株式会社山陰エコ・リサイクル	会社代表	代表取締役 内田 雄之	2026年6月1日
九州	大成自動車有限会社	会社代表	代表取締役 岩田 晶	2026年3月1日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>